

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう」 教材名「もっと知りたい、友だちのこと / 【コラム】きちんとつたえるために」

2 単元の目標

相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（〔知識及び技能〕(1)イ）

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（A(1)エ）

相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ）	①相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる。この教材では、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

話題・理由・具体例のメモを用い、既に聞いたことと次に知りたいことを分ける。個人的に話したくない内容を尋ねない。想定する難しさは、用意した質問を順に読むだけで返答を聞かない。評価では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっているかを、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○話し手が学校で関心をもっていることを話す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	4～5 （本時）	○話し手が学校で関心をもっていることを話す。聞き手は内容を短く言い返してから関連する質問をし、返答を受けて知ったことをまとめる。話す間や声の抑揚も試す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	6	○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」 【めあて】相手の話の中心に沿って質問し、友達について知ったことをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 質問を用意したが、答えを聞いて変えたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」 話し手が学校で関心をもっていることを話す。聞き手は内容を短く言い返してから関連する質問をし、返答を受けて知ったことをまとめる。話す間や声の抑揚も試す。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 質問を用意したが、答えを聞いて変えたい。 ・ 理由まで聞くとよさが分かった。	話題・理由・具体例のメモを用い、既に聞いたことと次に知りたいことを分ける。個人的に話したくない内容を尋ねない。 想定する難しさ：用意した質問を順に読むだけで返答を聞かない。 評価では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっているかを、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 質問前後で詳しくなった友達の紹介メモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 理由まで聞くとよさが分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「今の答えのどこを詳しく聞くと、その人の考えが分かりますか」。中央は、質問前後で詳しくなった友達の紹介メモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

